

### 3 宮古島久松地先干潟における ウラキツキガイの生息量について

伊野波盛仁、久高将彦

本調査は1964年6月に実施し、1964、1965年度合併の事業報告によって報告済みのものであるが、内容に大きな誤りがあるのでお詫びして呈正する。

#### 調査結果の概要

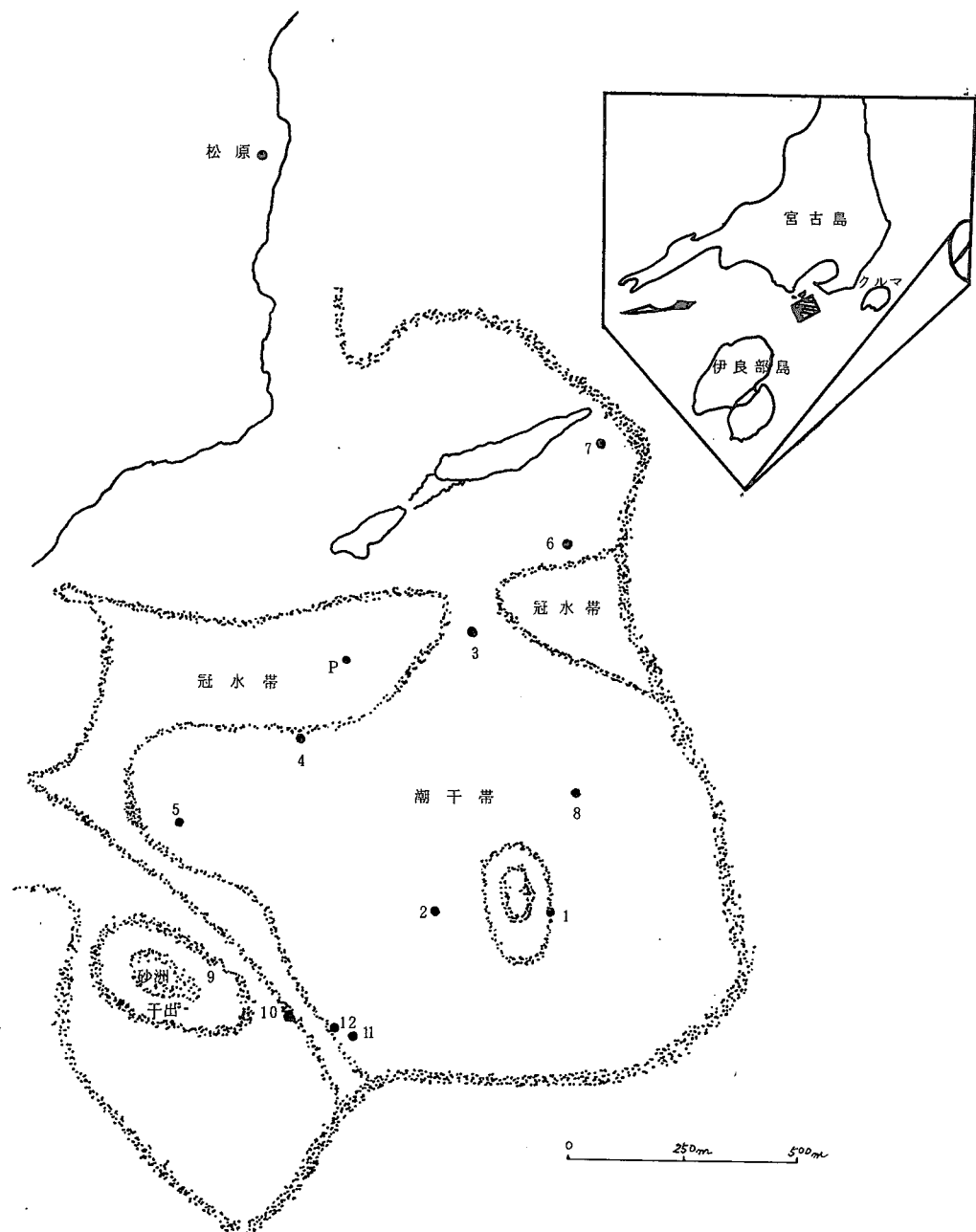
- 1) 調査域とその面積：調査域は松原地先の干潟であり、水路によって区分される与那覇岬側の干潟は入っていない。その面積は約150haである。
  - 2) 生息域：今回調査したほとんど全域に生息しているが、生息域は鮫産域と普通生息域に分けられ、面積はそれぞれ24haと120haである。砂の堆積部には生息していない。
  - 3) 生息密度：鮫産域では1㎡当り、平均70個体、586g、普通生息域では18個体、185gである。
  - 4) 生息量：久松地先干潟漁場におけるウラキツキガイの生息量は鮫産域で140トン、普通生息域で277トン計417トンと算定される。
  - 5) 年間適正採貝可能量：一応50～100トンの採取は資源的には可能と思われる。ただし、貝の採取は必然的にアジモ場の破壊をもたらすので、その点からはさらに検討が必要である。
- ※ ウラキツキガイとしてあるが、クチベニツキガイも含む。

第1表 採貝個体数及び重量

1964年6月11~14日

調査月日	ST	採貝点	採貝 個体数	総重量 (g)	平均 個体数	平均個体 重量 (g)	ST 1m <sup>2</sup> 当り重量	底質	海藻	備考
1964 6月11日	1	1 st	26	196				礫 3mm以 上5.55% 3-1 33.38 中砂 30.79 小砂 10.47 0.05以下 1.11 細砂 17.74	アマモ 少し	4月 に多 く採 貝
		2 nd	10	65	16	7.5	120			
		3 rd	11	90						
		4 th	16	130						
"	2	1 st	46	493						
		2 nd	55	380	51	8.2	429			
		3 rd	71	610						
		4 th	44	310						
6月12日	3	1 st	8	85	8	10.6	85			
"	4	1 st	10	99	10	9.9	99			
"	5	1 st	20	175	20	8.7	175			
6月13日	6	1 st	26	239	26	9.1	239			
"	7	1 st	10	110	10	11.0	110			
"	8	1 st	15	165	15	11.0	165			
"	9	1 st	0							
"	10	1 st	17	160	17	9.4	160			
6月14日	11	1 st	46	410						
		2 nd	55	380	64	7.9	510			
		3 rd	39	320						
		4 th	116	930						
					237		≒ 209			

第1図 久松地先干潟の性状と説点



第2図 棲息域と面積

